平成22年4月9日
第5回「新しい公共」円卓会議
谷口委員提出資料

特定非営利活動法人 ぱれっと
＜2009年度 資料＞

～目次～

・総合パンフレット　P1
・NPO法人ぱれっと 全体概要　P2
・NPO法人ぱれっとの組織図　P3
・たまり場ぱれっと概要　P4
・おかし屋ぱれっと概要　P5
・Restaurant&Bar Palette概要　P6
・えびす・ぱれっとホーム概要　P7
・その他

新しい家づくり資料　　添付資料

ぱれっとは就労・暮らし・余暇などの生活場面において障害のある人たちが直面する問題の解決を通して、すべての人々が当たり前に暮らせる社会の実現に寄与することを目的とします。

特定非営利活動法人ぱれっとの概要

●目的

ぱれっとは、就労・暮らし・余暇などの生活場面において障害のある人たちが直面する問題の解決を通して、すべての人たちが当たり前に暮らせる社会の実現に寄与する。

●主な活動内容

・たまり場ぱれっと（1983 年～）：誰でも自由に集い新しい仲間と可能性を見つける余暇活動の場
・おかし屋ぱれっと（1985 年～）：クッキー・ケーキの製造･販売を通して社会参加と自立を目ざす福祉作業所
・Restaurant & Bar Palette（1991 年～）：障害者・健常者・外国人が融合して最高の味とサービスを提供する株式会社ぱれっと
・えびす・ぱれっとホーム（1993 年～）：知的障害者が自立した生活を目指し地域の中で暮らす家、ケアホーム及びショートステイ
・ぱれっとインターナショナル・ジャパン（1999 年～）：国際交流･国際協力・国際支援活動の場
*Palette（スリランカぱれっと）（1999 年～2009 年）：クッキーの製造を通してスリランカの障害者が働く就労の場
→ 2010 年よりセイロンビスケット㈱が、クッキー工房「サハンセバナ」を設立。Palette のスタッフ及び通所員は、立ち上げメンバーとして雇用

●活動開始の時期と経緯

・ 1983 年 7 月 10 日開始
・ 渋谷区教育委員会主催「えびす青年教室」(知的障害者の社会教育の場)のボランティア有志が、障害者の人間関係や生活圏の拡大を目ざして創立。絵画の道具パレットの上で様々な色を混ぜ合わせて新しい色を創り出すように、色を人に置き換えて色々な人たちが「ぱれっと」で出会い、交流することで新しい可能性を生み出すことに挑戦。

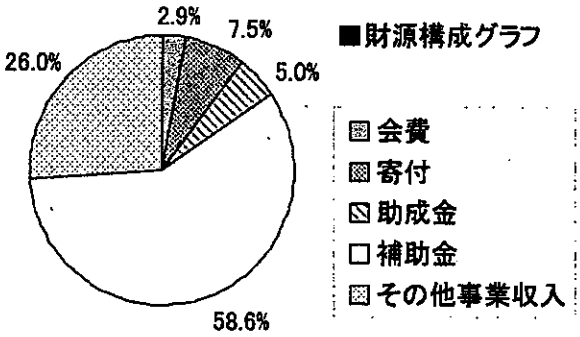
●理事長：　谷口 奈保子　　●事務局長：　菅原 睦子
●法人認証年月日：　2002 年 3 月 25 日
●活動分野：　福祉の増進を図る活動・国際協力の活動
●財政規模：　105,675,271 円（2008 年度の実績による収入）
●ホームページアドレス：http://www.npo-palette.or.jp
●E-mail：　palette@npo-palette.or.jp
●電話番号　03－5766－7302
●FAX 番号：　03－3409－3790

＜概要＞

◇組織：　理事１０名、監事１名
スタッフ：１８名
会員数４２６件(個人、団体含む)

◇財政内訳：

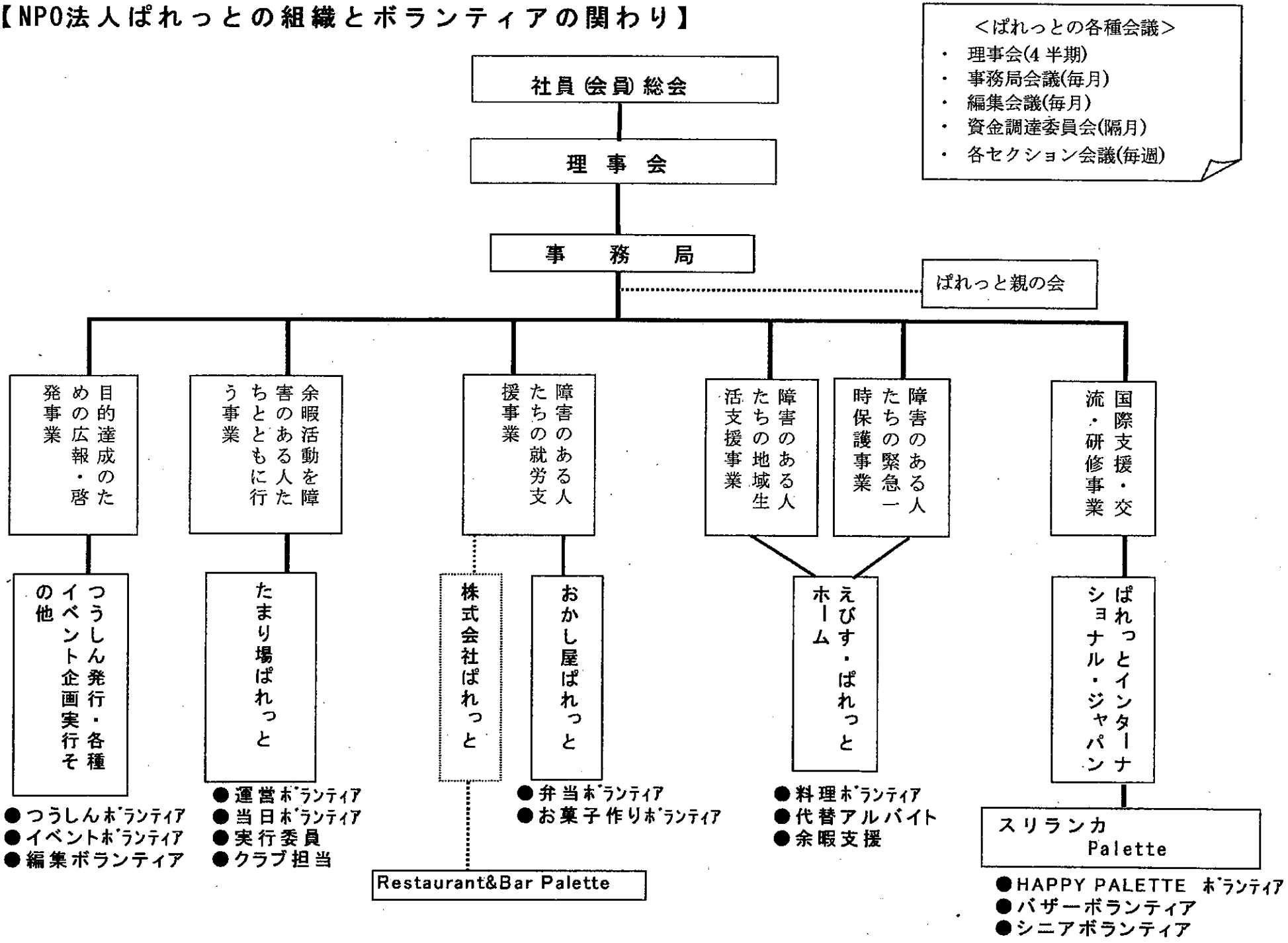
会費	2.9%	（ 3,052 千円）
寄付	7.5%	（ 7,886 千円）
助成金	5.0%	（ 5,281 千円）
補助金	58.6%	（61,925 千円）
その他事業収入	26.0%	（27,529 千円）



＜2009年４月１日現在＞

◇受賞歴：第４回ヤマト福祉財団賞　2003 年 12 月
第 10 回糸賀一雄記念賞　2006 年 11 月

【NPO法人ぱれっとの組織とボランティアの関わり】



2009年度版

たまり場ぱれっと　1983年7月設立

［歴　史］ たまり場ぱれっとは、えびす青年教室（渋谷区教育委員会実施）に集う障害のある青年達の、にんげんかんけいや生活圏の狭さに疑問を感じたボランティア有志が「日常的に安心して集える場を地域につくろう」と呼びかけ、１９８３年に誕生しました。開所当初は水、土、日の週３回の開放日を、ボランティアが当番制で支えていましたが、利用者の固定化により１９９６年に一時閉鎖をし、コンセプトやニーズを見直し、利用者のニーズや時代の変化と共にスタイルを変更して再開しました。現在は月 1 回の開放日と、各種クラブ活動を原則として、様々な行事の企画運営をしています。色々な人や個性が光る場、参加者が自主的に主体的に活動を創造できる場を目指しています。

［活動日時］ 開放日：基本的に第１日曜日　10：00～16：00（内容により日程変更あり）
クラブ活動：平日夜、または土日を利用して随時開催

［活動内容］ ●たまり場ぱれっとの情報紙「Let's Go!」とホームページで情報発信
●開放日毎月１回（学生・社会人の運営ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱが企画実行。毎月 40 人程が参加）
●クラブ活動（野球ふぁん倶楽部、ティーボールクラブ、外国語を学ぶクラブなど、利用者自らが中心に企画実行）
●年間行事（雪あそび合宿２月、プチ･バカンス８月 等）
●ボランティア研修（講演会、勉強会、交流会等）

［ スタッフ ］ 常勤１名、運営ボランティア 7～8 名（社会人・学生）

［利用者数］ 100～150 名（年間）（内、ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ数：60 人～80 人）

※　利用者･･･障害のある人、ボランティアなどたまり場を利用する全ての人の意味。
基本的には、18 歳以上の方を対象としています。

※　ボランティアは随時募集しています。

［運営資金］ 主にぱれっと会員からの会費収入と寄付金（公的な資金援助はありません）

［運営体制］ 「運営ボランティア」と呼ばれる人たちが企画運営にあたっています。運営ボランティアは様々な企画の運営全般に関わり活動をリードします。毎週平日の夜に集まり、イベント運営会議を行なっています。その他、開放日やクラブ活動の当日に参加して活動を盛り上げる一般ボランティア、宿泊等の大きな行事の企画運営に関わる実行委員ボランティアが活動をサポートし、利用者の声を形にしています。また、職員はぱれっとの理念をもとに、たまり場を利用する全ての人たちが安全に安心して活動に参加できるよう、活動全体を把握しながら助言やアドバイスをしています。

○【運営ボランティアのイベント運営会議】
・　毎週木曜日１９：３０～２１：３０　・場所：恵比寿
・　企画内容：毎月行われる各種イベント、クラブ活動（英会話クラブ、スポーツクラブなど）、年２回の宿泊行事、勉強会や交流会など

【連絡先】
たまり場ぱれっと　職員　左右木（そうき）
住　所：東京都渋谷区東３－１９－９恵比寿イーストビル１階
ＴＥＬ：０３－５７６６－７３０４　ＦＡＸ：０３－３４０９－３７９０
Ｅメール：tamariba@npo-palette.or.jp　／　ＵＲＬ：http://www.tamariba-palette.or.jp

色々な人の個性がぶつかり合い、新しいものを創造し形にしていく場所・・・

たまり場 ぱれっと

主な活動内容と活動日

	日程	内容
開放日	毎月第一日曜日 10:00～15:00 (都合により日程変更する場合もあります)	お花見、ラーメンツアー、料理教室、各種パーティー、カラオケ、遊園地、散歩、ゲームやおしゃべりなど内容多彩。
ぱれっと福祉バザー	10 月中旬	年に一度の大規模なバザー。100 名以上の人がボランティアで活躍。たまり場活動に必要な資金源のひとつになっているのだ！
クラブ活動	通年	スポーツふぁんくらぶやティーボールクラブ、外国語を学ぶクラス、パソコン教室など、やりたい人達を中心に企画運営しています。もちろんどなたでも参加できます。
宿泊行事		
プチバカンス	8 月	毎年大人気のプログラム、一晩一緒に過ごせば、もう兄弟同然!?

ボランティア募集　～ボランティアの役割と職員の役割

障害のある人に対して何かをしてあげるのではなくて、良い関係作りを通して互いに学びあいながら、苦手なところをフォローする、そんなボランティアを求めています。

充実した余暇活動の企画立てや余暇プログラムで一緒に過ごす中で、様々な気づきや発見があります。それは障害そのものについてかもしれないし、自分自身についての発見かもしれません。余暇プログラムを通して障害のある方と仲間作りをすること、関係を作りつなげることがたまり場ボランティアの役割といえるでしょう。

職員はぱれっとの理念をもとに、たまり場を利用する全ての人たちが安全に安心して活動に参加できるよう、活動全体を把握しながら助言やアドバイスをしています。

『活動への関わりは 3 種類』

自分の時間やかかわり方を自分で決めて活動に参加していただきます。

運営ボランティア　活動をより充実させるために、『たまり場ぱれっと』の運営全般に関わりそれぞれのセンスで活動をリードする

一般ボランティア　開放日やクラブ活動の当日に参加して活動を盛り上げる

実行委員ボランティア　宿泊等の大きな行事の企画運営に関わる

また、法人全体でのイベントも随時行なっています。毎年 1 回、500 名以上のボランティアとともに開催する資金調達の大きなイベント『ぱれっと福祉バザー(10 月中旬)』をはじめ、各種チャリティイベントなどがあり、随時ボランティア協力の情報を流しています。

『活動前に行なうオリエンテーション』

納得して活動に入っていただくために、ぱれっとの見学を兼ねた事前オリエンテーションを行ないます。写真を見ながらの活動紹介、注意事項、緊急時の対応など、一つ一つ確認していきます。基本的には木曜日の PM6 時～7 時オリエンテーション。7 時半からはたまり場運営会議に参加してもらいます。(木曜以外は日程調整。要相談)

福祉作業所おかし屋ぱれっとの概要（2009年5月現在）

〒150-0011　渋谷区東3-19-9 恵比寿イーストビル101
Tel&Fax　03-3409-3774　E-mail　okashiya@npo-palette.or.jp　http://www.okashiya-palette.or.jp

■通所員の状況

○人数：9名
　10代1名、20代4名、30代2名、40代2名／男性4名、女性5名
○採用条件：渋谷区内在住、愛の手帳を所持
　　原則として自力通所ができ身辺自立が可能であること（衛生管理）

■スタッフ

常勤職員2名、非常勤職員1名、アルバイト1名、作業ボランティア10名

■作業種目

○クッキー・ケーキ作り
○軽作業（クッキーパッキング、包装、箱折、乾燥剤入れその他）
○お弁当作り（月2回水曜日に通所員と職員の昼食をボランティアとともに作る）

■労働条件

勤務時間：月~金曜日　8:45~17:30（年末お歳暮の時期は土曜出勤あり）　休日：土日祝祭日
残業代支給：17時半以降残業代支給
夏期・冬期休暇、有給休暇年10日、退職金あり

■作業工賃

基本給38,262円（高卒）（最高91,885円）、賞与（夏1ヶ月、冬1ヶ月）
平均月額58,151円（賞与含む）

■作業所の特徴

○自主製品を作り、製造から販売まで一貫した仕事を行う。
○通所員にとって作業工程が理解しやすい製品づくりを行う。
○企業と同様に利益を追求し、従業員の労働条件を整備する。
○企業へも就労できるように援助する。
＊企業就労先：スターバックス、東急ストア、渋谷郵便局
○企業とのつながりをつくり訪問販売を行う
○通所員一人一人に合った仕事の選択をする。
○地域に住むボランティアの参加により、多くの人との出会いと人間関係の広がりをつくる。

■組織運営

○渋谷区補助金　19,488,610円
　・賃借料として　6,480,000円（月額限度額540,000円×12月）
　・事務費として　11,594,760円（96,623円×１０名×12月）
　・事業費として　1,036,800円（8640円×１０名×12月）
　・通所員交通費として　360,000円（6,000円×5名×12月）
○売上　年間　22,864,898円(平成20年度)
○賃借料：778,046円/月（年間9,336,552円）
○会議
　・ぱれっと親の会、各セクション事務局員会議（月1回）
　・おかし屋職員会議（週1回）
　・通所員個人面談・父母面談（年1回）

スリランカ料理＆BEER
Restaurant&Bar Palette

店舗コンセプトと概要

１．基本コンセプト

・障害者、健常者、外国人がともに働き利益を追求する「株式会社」

・障害の有無に関係なく誰もが食べに来られる「ユニバーサルデザイン」の追求

２．店舗概要

経営主体：株式会社ぱれっと

（資本金３５００万円・１９９０年４月設立・株主総数２８名）

所在地：東京都渋谷区恵比寿西１－１５－２　℡０３－５４８９－０７７０

E-mail UGJ28199@nifty.com　Web http://www.r-palette.com/

席数：２４席

店舗面積：１１．２８坪（賃料：３３６０００円／月）

スタッフ：店長１名、スリランカ人コック１名、日本人コック１名、

知的障害者２名（うち１名は主任）

営業時間：１１時３０分～１５時　１７時３０分～２３時３０分

３．変遷

１９８９年１月　おかし屋ぱれっと（作業所）の親とボランティア有志による準備委員会設立

１９９０年４月　株式会社ぱれっと設立

１９９１年１月　「スリランカレストランぱれっと」開店（渋谷区恵比寿西１－１６－８）

１９９６年８月　「香辛酒房ぱれっと」に店名変更・現在地へ移転

２００３年１１月「Restaurant & Bar Palette」へ店名変更及び店舗改装

４．業績（単位:円）

平成１７年度：１９，５１７，８００

平成１８年度：１９，９０５，６６１

平成１９年度：１７，５６５，４６９

平成２０年度：１７，４６３，８６８

５．イベント

２００２年より、ＮＰＯ活動に携わる人たちや興味のある人たちの出会いと連携を目指した飲み会「ぱれっとサロン」を開催中。毎回各分野で活躍する人を招いて話をしてもらい、それをきっかけに徹底的に飲んで食べて話す会を開いている。誰でも参加ＯＫ。

６．経営について

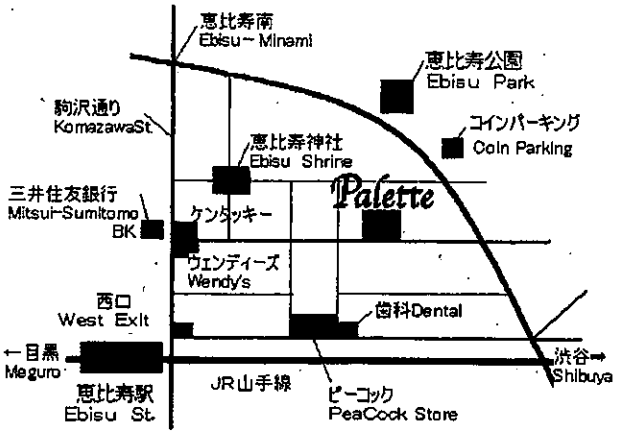
レストランのある恵比寿西地域は、周囲を恵比寿ガーデンプレイス、恵比寿駅ビルショッピングモール「アトレ」、代官山アドレスなどに囲まれた飲食店の大激戦区です。Bar、居酒屋、イタリアン、フレンチ、エスニック、中華などありとあらゆるジャンルの店が立ち並び、入れ替わりも大変激しく、次々と新しい店が誕生しています。ここに店を構えた当時、本当にやっていかれるのか、と周囲からはたくさんの不安の声がありました。

もともと、ぱれっとは１９８３年に余暇活動支援からスタートした小さな団体でした。障害のある人たちが、閉鎖的な社会の中で暮らしている状況に疑問を持ち、ごく当たり前に地域で生活する拠点を作り続け、２００８年で２５年を迎えました。その中で１７年目を迎えた株式会社ぱれっとは「当たり前に働く職場」を目指して設立されたセクションです。当時は障害のある人たちが働く職場というと、施設か作業所に限られ、いわゆる資本主義経済からは遠く離れた存在でした。その背景には彼らには一般就労はできないという先入観、障害という名のもとにすべてをひとくくりにしてしまおうという考えがありました。私たちはそれを全面的に否定してしまうつもりは毛頭ありません。確かにどんな障害があっても、同じように働けるかと言えば答えは NO です。しかし、中には支援を工夫することによって利益を求める場面に立派に関われる人がいるはずだという考えのもと、企業体として今の店をオープンしました。

開店から１８年、数々の紆余曲折を繰り返しながら現在に至っていますが、残念ながら経営は決して自慢できる状態ではありません。大幅な赤字を出さないのがやっと、というのが正直なところで、従業員もぎりぎりの人数で取り組まざるを得ない状況です。ただこれは、彼らが働いているからということでは決してなく、激戦区の中で１８年間営業を続けることそのものが大変であるということを表しています。そしてその中にあって障害のある人たち２名は開店当時から働いているベテランになり、その成長は頼もしいばかりです。ひとりが約９年前から主任に昇格し、他の従業員の仕事管理から、清掃、接客、会計などありとあらゆる業務を一生懸命こなしています。給与についても各々、勤務時間による開きはあるものの、３万～１０万の金額を支給しています。

Restaurant&Bar　Palette では、障害のある人たちが働いているということを全く宣伝していません。これは隠しているということではなく、それをしてしまうことによって彼らが働いていることが特別になってしまうからです。お客様はそのコンセプトを知らずに来店し、知らずにお帰りになります。そしてそれこそが当たり前の店であると私たちは考えています。ごく普通に皆が共に働く飲食店、それが「Restaurant&Bar　Palette」です。

店長　南山達郎



ＪＲ山手線・埼京線・湘南新宿ライン
東京メトロ日比谷線
「恵比寿駅」西口下車徒歩３分

JR 西口改札を出て左へ、駅前ロータリー右手のケンタッキーフライドチキン、ハンバーガーショップウェンディーズの間の道を入った奥・左手ビルの１階

2009年度版

えびす・ぱれっとホーム　（2009年５月現在）

１．基本コンセプト

・ 知的障害者を対象としたケアホームと渋谷区在住者を対象としたショートステイの運営
・ 暮らしの場は安らぎの場であることを基本理念に、共同生活での様々な経験を通し、地域の中でのあたり前の暮らしを目指す

２．概要

○所在地：〒150-0011　東京都渋谷区東３－１４－５
TEL&FAX ０３－３４０７－６０７０
E-mail ep-home@npo-palette.or.jp　Web http://www.npo-palette.or.jp

○事業内容

＜共同生活介護（ケアホーム）＞：６名（６名定員）
原則として渋谷区に住所を有す知的障害者、就労者（見込み者含む）
身辺の処理ができ、社会的自立に意欲がある方
利用料：５５，０００円／月（内訳；家賃20,000円、食費30,000円、水光熱費5,000円）

＜緊急一時保護(ショートステイ)＞：２名定員
渋谷区在住の知的障害児・者　６歳以上
利用料：なし　食費１食５００円　おやつなどは実費

＊２事業とも、利用希望者は渋谷区障害者福祉課にて利用申請登録が必要です。

○スタッフ：専従職員４名　代替職員１５名登録　料理ボランティア１３名登録

３．組織運営

４６，８２３，３３４円／年（2008年度実績）

○渋谷区補助金他	２０，６９３，４８０円（グループホーム）
○渋谷区委託金	２１，０２９，０７０円（緊急一時保護事業他）
○利用者負担金収入	３，４７３，８５９円（グループホーム本人利用料）
○その他	１，６２６，９２５円（助成金、寄付金等）

※　2009年４月１日より障害者自立支援法の規定による指定障害福祉サービス　共同生活介護（ケアホーム）の事業者となり、ケアホームは介護給付費他と渋谷区補助金により運営する。

４．変遷

1993年１月　ぱれっとホーム(仮称)プロジェクト会議設立
1993年８月　えびす･ぱれっとホーム開所
2009年４月　障害者自立支援法　共同生活介護（ケアホーム）の指定事業者となる

障害のある人もない人も安心して暮らせる
“ぱれっとの家 いこっと”

1）事業立ち上げの背景

現在、知的障害者の８割以上が自宅で、主に親の介助・支援を受けながら暮らしています。それ以外の方でグループホームやケアホームなどの入所施設で暮らしている方もいますが、親や施設から自立して生活している方はごく少数であるのが現状です。しかし、障害が軽度で身の回りのことが自立してできる方もおり、少しのサポートがあれば親や施設から自立した生活が十分可能だと思われます。そうした方に特定非営利活動法人ぱれっと（以下、ぱれっと）がサポートをすることで、知的障害者が自立して生活する機会を増やしていきたいと考えました。

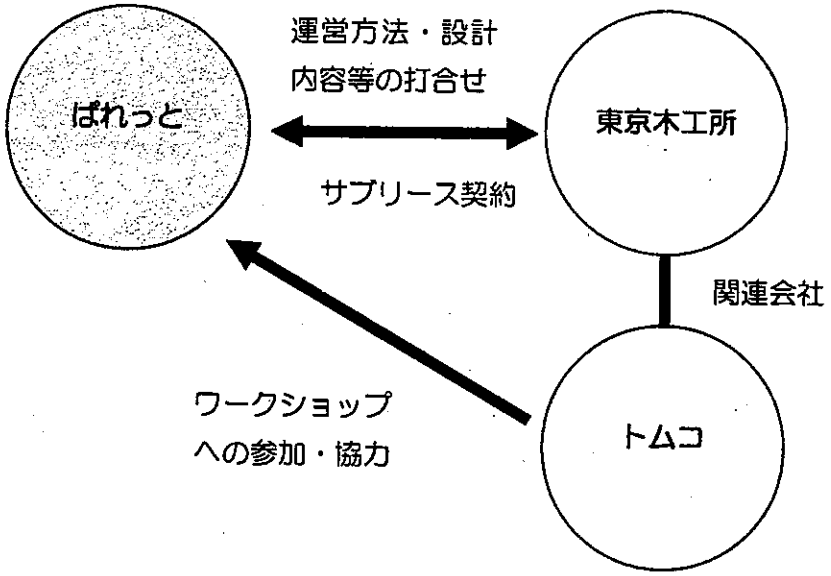
ぱれっとは、障害者が自立生活の一歩を踏み出すために必要なサポートととは、同じ家に共に暮らす“人”がいることだと考えました。そこで、２００９年１月に企業との協働により知的障害者と健常者が共に住む新しいタイプの家をつくる、ぱれっとの新しい家づくり計画（以下、新しい家づくり計画）を立ち上げ、この度、ぱれっとの家 いこっと（以下、いこっと）が完成ました。このような事業は全国にもまだ事例が少ないため、この事業が成功し、モデルとして全国に広がっていくことで、障害者の暮らしの選択肢が広がると考えています。

2）企業との協働事業

新しい家づくり計画は、長年ぱれっとを支援していただいている株式会社東京木工所（以下、東京木工所）に、計画の意義を賛同いただき、ぱれっとと東京木工所の協働事業として始まりました。具体的には、東京木工所が土地の提供と建物の建設を担い、ぱれっとが建物をサブリースで借り受けて運営していきます。建物の設計には、ぱれっとがワークショップ等で話合った内容をほぼ全面的に取り入れていただきました。その際には、設計を担当された株式会社トムコの担当の方にもワークショップに参加いただき、ご協力をいただきました。

【企業とぱれっとの役割分担】

◆株式会社東京木工所・・・・・・・土地の提供と建物の建設
◆株式会社トムコ・・・・・・・・・・建物の設計とワークショップへの協力
◆特定非営利活動法人ぱれっと・・・家づくりワークショップの実施と建物の運営



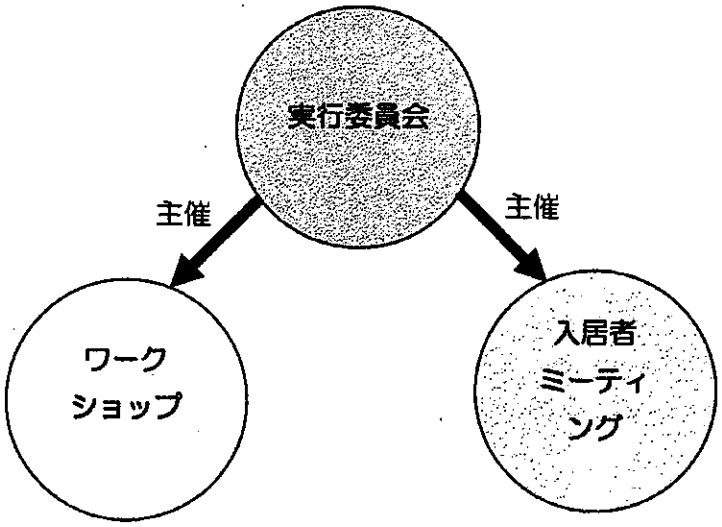
3）計画段階の組織体制

新しい家づくり計画を始めるにあたり、ぱれっとの職員だけで計画を進めるのではなく、計画の主旨に賛同する様々な立場の人を集め、下記の組織や機会を設け、計画を進めてきました。

◆家づくり実行委員会・・・・・ぱれっと職員とボランティア有志により構成し、活動の立案や家づくりワークショップや入居者ミーティングを主催して意見を整理し、計画を推進してく役目。

◆家づくりワークショップ・・・ぱれっと職員、ボランティア、障害者本人、親、入居希望者が参加し、家づくりの様々な課題を洗い出し、話合う場。

◆入居者ミーティング・・・・・入居前に入居者が集まり、共に暮らしていくためのルールなどを話し合う場。ミーティングを通じてお互いのことをよく知り、スムーズな暮らしへとつなげることも目的。



4）家づくりワークショップで話し合ってきた主な内容

家づくりワークショップは全部で２４回開催しました。毎回１５～２０人の参加者が集まり、下記の内容を主に話合ってきました。

◆生活について・・・「新しい家」での生活のイメージ（障害者と健常者のイメージのギャップ）、不安な点や心配な点とその改善策など。

◆建物について・・・共用部分の位置・広さ、居室の数・広さ、共用部分と居室のバランス、バリアフリーの考え方、水廻りの位置や数、内装の色など。

◆その他・・・・・・ミッション、入居者募集チラシの内容、アンケート調査の内容、プレスリリースの内容、建物名称、表札のデザインなど。

5）ミッション

家づくりワークショップの最初の段階で、新しい家づくり計画の主旨をよく確認し、話合った上で、下記をミッションとして定め、計画を進めてきました。

～障害のある人もない人も安心して暮らせる家をつくる～

①障害のある人も、自分の力で暮らせる家です。

②一人ひとりが個室を持ち、共用のキッチンとリビングがあります。

③入居者同士のコミュニケーションを大切にし、自分たちで住まい方を作っていく家です。

6）“ぱれっとの家 いこっと”の住まい方

一口に、“知的障害者と健常者が共に住む新しいタイプの家”といっても単に同じ建物に住むだけではなく、入居者同士がコミュニケーションを取りやすい住まいの仕組みが必要です。その仕組みを考える上でヒントとしたものに、コレクティブハウスという住まい方があります。

> コレクティブハウスとは、「さまざまな人がそれぞれ独立した住戸に住みながら、共用のキッチンやリビングなどをもち、食事など生活の一部を共同化する住まい方」です。食事などの共同化は、家事の負担軽減と共に入居者同士のコミュニケーションを深める仕組みにもなります。

“いこっと”は、規模や居住形式的に純粋な意味でのコレクティブハウスとは異なりますが、“入居者同士のコミュニケーションを深める仕組み”を持つという意味で、コレクティブハウスの要素を取り入れた住まい方を目指しています。

7）生活のイメージ

家づくりワークショップで話し合った、いこっとでの生活のイメージをまとめました。

- ◆他の入居者全員と知り合いになれるので、普通の一人暮らしよりも安全で安心です。
- ◆プライバシーが確保された居室があった上での共同生活です。
- ◆共同生活の中でいろいろな人と関わりが持て、一人暮らしが不安な人も他の入居者と支え合いながら暮らせます。
- ◆朝の『おはよう・いってきます・いってらっしゃい』や、帰った時の『お帰り・ただいま』などのあいさつをはじめとした入居者同士のコミュニケーションがあふれる温かい生活ができます。
- ◆食事は基本的には各自がそれぞれでとりますが、月に何回かはみんなでいっしょに夕食を食べる日を設けます。
- ◆何人かでいっしょに共用キッチンで夕食を作ることもできます。
- ◆共同生活をする上での基本的なルールや困ったことは、月に１回程度、入居者みんなが集まって話合い、住まい方を自分たちでつくっていきます。
- ◆入居者同士、困ったことや分からないことがあった時に気軽に聞ける関係を作ります。
- ◆知的障害者も住みますが、介護スタッフや世話人が常駐するわけではありません。必要に応じて隣のぱれっとホームの職員やぱれっと関係者がサポートします。

8）入居者ミーティング

２０１０年１月から月に１回の入居者ミーティングを開始し、入居前までに３回行いました。入居開始後も月に１回のペースで行う予定にしています。

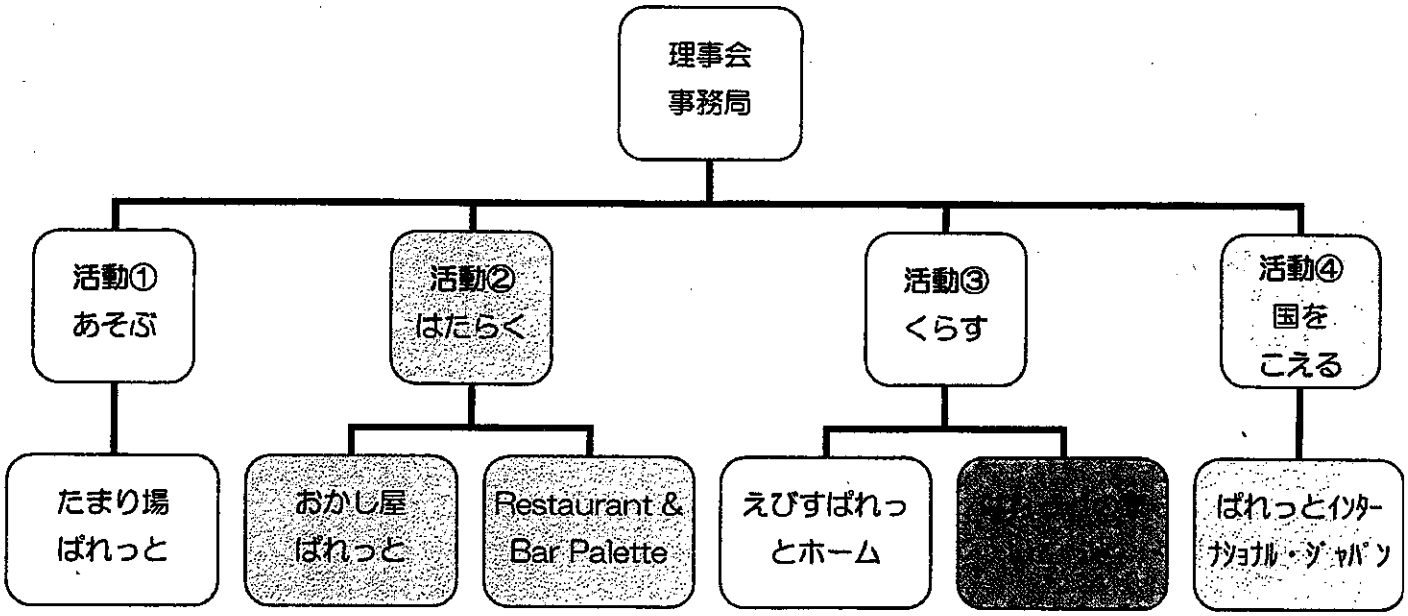
【入居者ミーティングで話合ってきた内容】

- ◆いこっとに住もうと思った理由。
- ◆いこっとでどんな暮らしをしたいか。
- ◆１階の共用キッチン・ダイニング・リビングの呼び方。⇒“いこ間”に決定。」
- ◆共用部の掃除について。
- ◆浴室、シャワー室、トイレ、洗濯スペース、キッチンの使い方。
- ◆だれがどの部屋に住むか。
- ◆共用備品として何が必要か。

9）“ぱれっとの家 いこっと”の運営体制

【いこっとの位置付け】

◆いこっとは、ぱれっとの“あそぶ”、“はたらく”、“くらす”、“国をこえる”という４つの活動のうち、“くらす”という活動の中の一つとなります。



【運営体制】

◆東京木工所とぱれっとで建物のサブリース契約を結び、ぱれっとと入居者で賃貸契約を結びます。

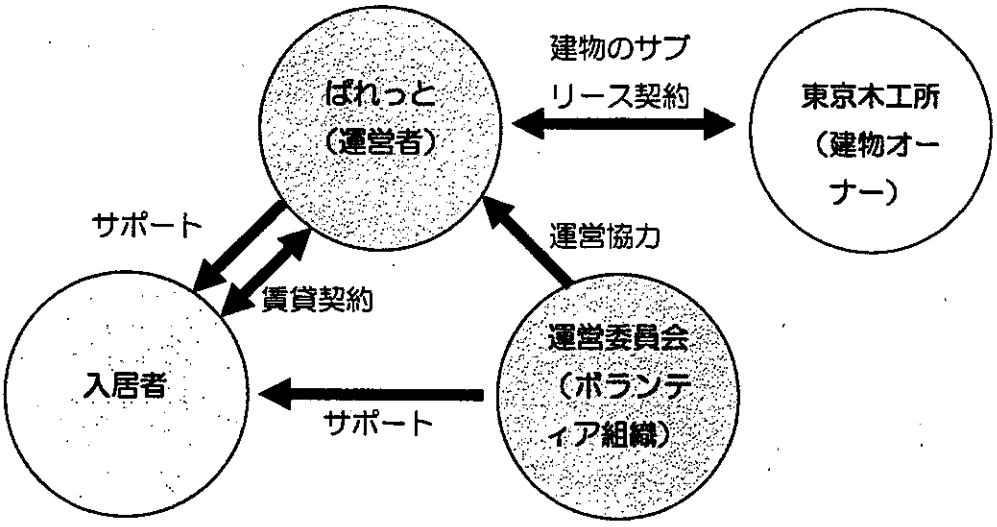
◆計画段階の実行委員会・ワークショップに替わり、運営段階のために新たなボランティア組織として“運営委員会（仮称）”を設け、ぱれっとに協力し、運営をサポートするしくみを作ります。

【ぱれっとスタッフの業務】

入居者の窓口、新入居者の手続き、退去者の手続き、待機者リストの作成・管理、東京木工所の窓口、一般の窓口、資金管理

【ぱれっとスタッフと運営委員会の協力業務】

入居者ミーティングのサポート、入居者募集、入居希望者への対応、待機者リストの作成・管理、助成金調査・申請、いこっとのくらしの調査・研究、暮らしのサポートシステムの検討



１０）建物の構成

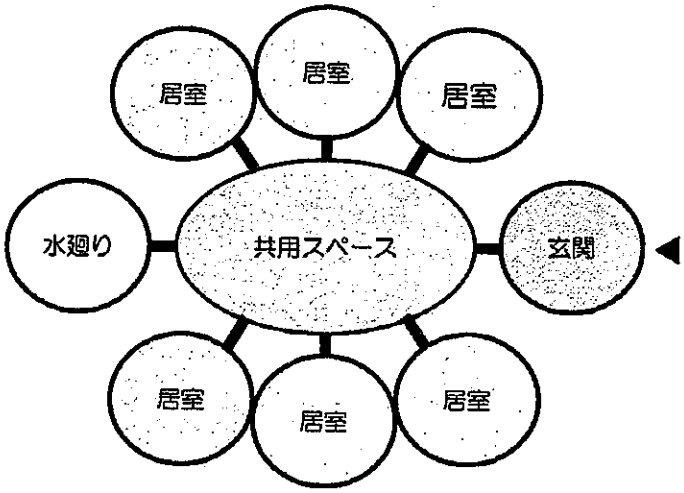
【建物の平面構成】

◆共用の玄関を入り、共用スペースを経由して各居室にアクセスすることで、共用スペースで他の入居者と顔を合わす機会が増えることを期待します。

◆共用スペースはキッチン・ダイニング・リビングを合せて約１９畳の広さがあります。

◆各居室の広さは約６畳です。（収納部分を除く）

◆キッチン・トイレ・浴室・シャワー・洗面・ランドリーなどの水廻りは共用です。

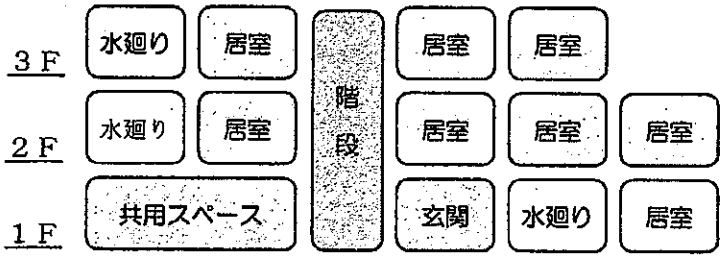


【建物の断面構成】

◆１階には玄関・共用スペース・居室を１室設け、共用の水廻りには浴室を設置します。

◆２階は居室が４室あり、共用の水廻りにはシャワーを設置します。

◆３階は居室が３室あり、共用の水廻りにはシャワーを設置します。



１１）計画概要

◆住　　所：東京都渋谷区東３丁目（「恵比寿」駅より徒歩約８分）
　　※えびすぱれっとホームの隣です。

◆建物概要：木造（２×４工法）、地上３階建て（居室数：８室）

◆延床面積：約１６９㎡

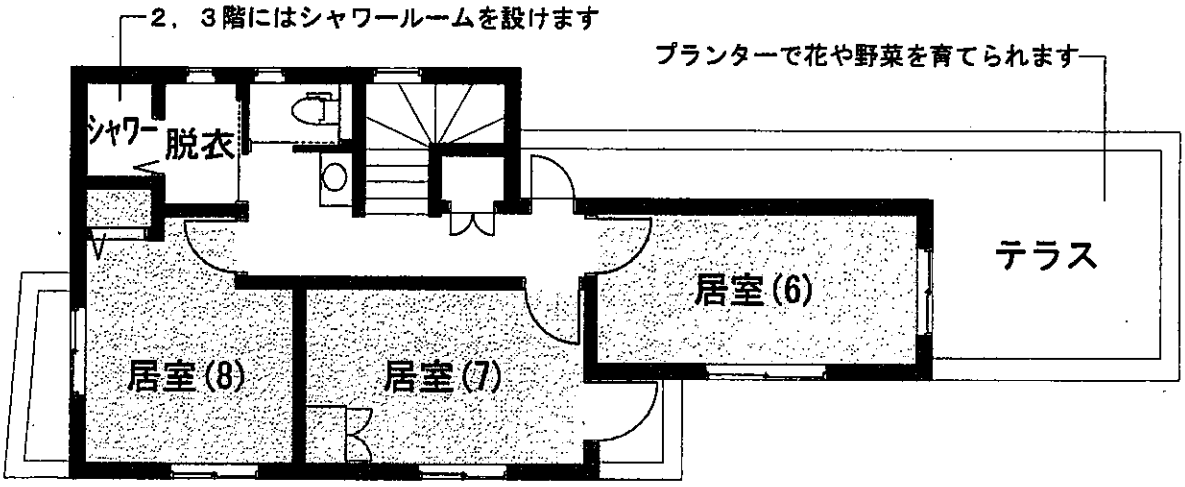
◆居室広さ：各室約６畳（収納スペースを除く）
　　※浴室・シャワー・トイレ・洗面・洗濯機は共用。
　　※１階に約１９畳の共用キッチン・リビング・ダイニング（通称“いこ間”）あり。

◆家 賃 等：家賃６万９千円～７万３千円、敷金２ヶ月、礼金なし
　　※水光熱費は入居者で均等割り。

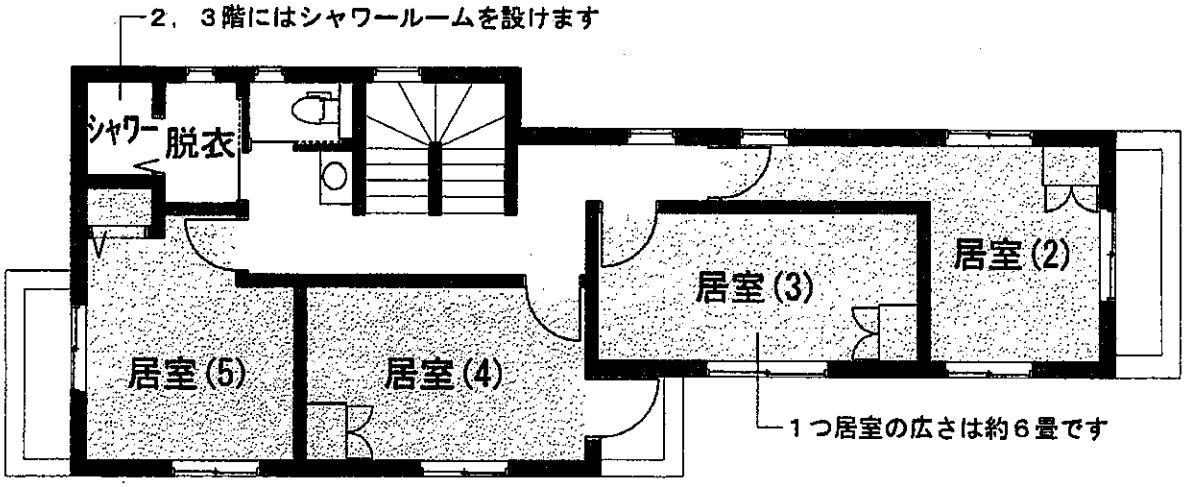
◆入居開始：平成２２年４月上旬

◆入居条件：原則、就労していて日常生活を自立して行える方。

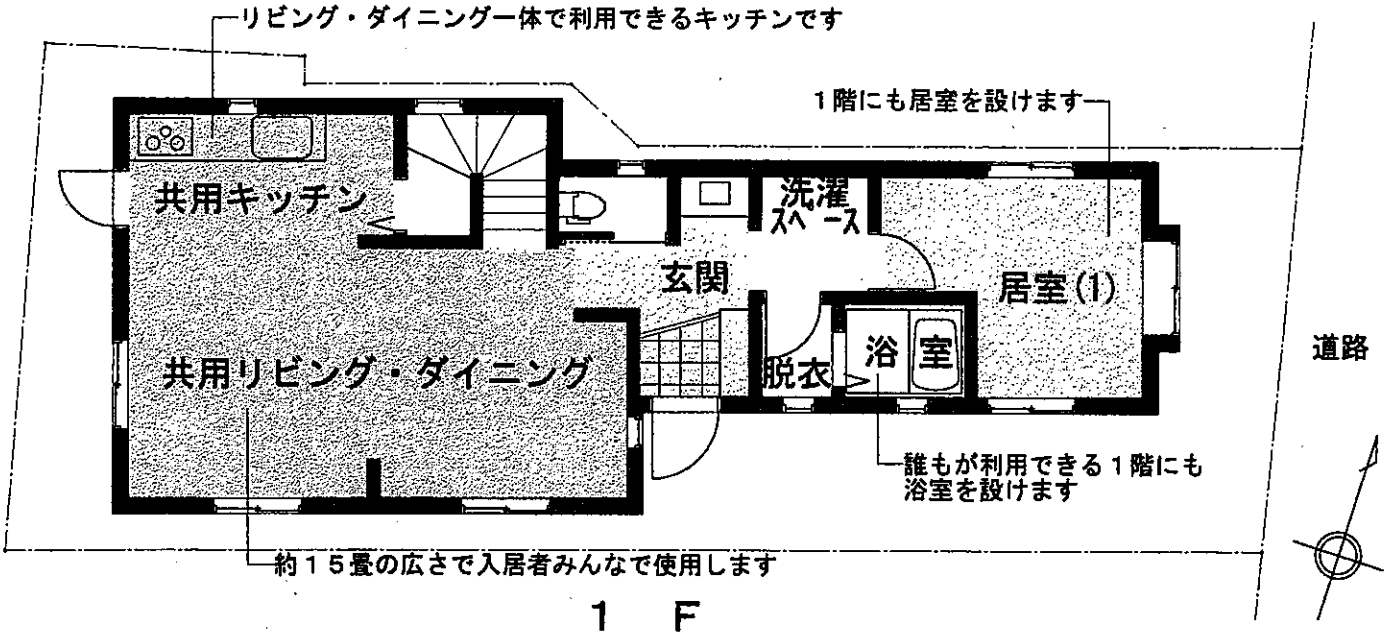
１２）ぱれっとの家 いこっと　間取図（１／１００）



３　Ｆ



２　Ｆ



１　Ｆ

知的障害者の一人暮らしに関するアンケート結果　有効回答数：４７

Ｑ１．お子さんの年齢お聞かせください

１．１０代　３人（6.38%）
２．２０代　２２人（46.38%）
３．３０代　１２人（25.53%）
４．４０代　８人（17.02%）
５．５０代　１人（2.13%）
６．無回答　１人（2.13%）

Ｑ２．お子さんの性別をお聞かせください

１．男　２７名（57.45%）
２．女　１９名（40.03%）
３．無回答　１名（2.13%）

Ｑ３．お差し支えなければ、お子さんの障害をお聞かせください(例　ダウン症候群)

・知的障害(合併含)　21人（44.68%）
・ダウン症候群　7人（14.89%）
・自閉症　5人（10.64%）
・てんかん　2人（4.26%）
・神経麻痺　1人（2.13%）
・右半身麻痺　1人（2.13%）
・精神障害　1人（2.13%）
・体幹機能障害　1人（2.13%）
・無回答　8人（17.02%）

Ｑ４．今回のぱれっとの新しい家づくり計画は知っていましたか

１．知っていた　１６名（34.03%）
２．初めて知った　３１名（65.96%）

Ｑ５．今回の計画をはじめて聞いたときどの様に思いましたか

１．いい試みだと思った　41名（87.23%）
２．特に何も思わなかった　3名（6.38%）
３．必要がないと思った　1名（2.13%）
４．無回答　2名（4.26%）

Ｑ６．現在のお子さんの暮らし方についてお聞かせ下さい

１．自宅　４２名（89.36%）
２．民間のアパートで一人暮らし　0名（0%）
３．グループホーム　3名（6.38%）
４．ケアホーム　1名（2.13%）
５．生活寮　1名（2.13%）
６．通勤寮　0名（0%）
７．親戚や知人の家　0名（0%）

Ｑ７．お子さんに一人暮らしなどで親元から離れた暮らし(グループホーム、ケアホーム等を含む）を経験させてみたいと思った事はありますか？理由も合わせてご記入ください

１．はい　４０名（85.11%）
２．いいえ　1名（2.13%）
３．考えた事はない　3名（6.38%）
４．無回答　3名（6.38%）

理由（複数回答有）

１．親亡き後は１人暮らしになるので　２２名（55%）
２．自立のため　9名（22.5%）
３．無回答　8名（22%）

Ｑ８．ご自身が今後、高齢や病気になりお子さんの世話が出来ないと仮定した場合、お子さんの暮らしについて考えた事は今までありましたか

１．ある　４４名（93.26%）
２．ない　2名（4.26%）
３．考えた事はない　1名（2.13%）

Ｑ９．実際にお子さんの世話が出来ないと仮定した場合、お子さんにはどの様な暮らし方が相応しいとお考えですか（複数回答可）

１．そのまま自宅で暮らす14名(29.79%)
２．民間のアパートを探し一人で暮らす　1名（2.13%）
３．グループホームやケアホームに入居させて暮らす　３７名（78.82%）
４．生活寮や通勤寮に入寮させて暮らす　7名（14.89%）
５．親戚(兄弟やいとこなど)や知人にお願いしてその家で暮らす　12名（25.53%）

Ｑ10．一人暮らしで民間のアパートを借りる場合、家賃がどのぐらいなら実際に住まわせたいと思いますか？

１．４万円未満　13名（27.66%）
２．4万円以上～6万円未満　26名（55.32%）
３．6万円以上～８万円未満　5名（10.64%）
４．８万円以上　0名（0%）
５．民間アパートは借りない　1名（2.13%）
６．無回答　3名（6.38%）

Ｑ11．今回、ぱれっとが作ろうとしている「障害のある人とない人が一緒に住む」家にお子さんを住まわせたいと思いましたか

１．思った　１９名（40.43%）
２．思わない　１２名（25.53%）
３．考えた事は無い　１０名（21.28%）
４．決められない　1名（2.13%）
５．将来的には思う　1名（2.13%）
６．無回答　4名（8.51%）

Ｑ12．Ｑ１１で２または３と答えた方にお聞きします　それはなぜでしょうか（複数回答可　回答者：２６）

１．一人暮らしに不安がある　12名(46.15%)

2．財政的（家賃が高い等）な理由で一人暮らしをさせる事ができない
10名(38.46%)
3．前に一人暮らしをさせていたが難しかった　1名(3.85%)
4．親が世話をできなくても自宅で一人暮らしをさせた方が安心
2名(7.69%)
5．他人と一緒に住む事が不安
18名(69.23%)
6．勤務地から遠い　2名(7.69%)
7．今の環境で生活させてあげたい
1名(3.85%)

Q13．お子さんが一人暮らしをする場合、(今回の家に住むと仮定した場合)親としては何が一番不安ですか？ある場合は不安の内容を教えてください。特にない場合は先に進んでください(左:回答者の%、右:全体の%)

・同居人とのコミュニケーション・関係
11名 (23.4%) (28.95%)
・相談相手(世話人や指導者の有無)
10名 (21.28%) (26.32%)
・食事のこと　8名 (17.02%) (21.05%)
・金銭管理　7名 (14.89%) (18.42%)
・生活全般　6名 (12.77%) (15.79%)
・生活のリズム　4名 (8.51%) (10.53%)
・健康管理　3名 (6.38%) (7.89%)
・病気の際の対応　3名 (6.38%) (7.89%)
・共同スペースについて(ルール)
2名 (4.26%) (5.26%)
・異性と住む事　2名 (4.26%) (5.26%)
・鍵の管理　1名 (2.13%) (2.63%)
・終の棲家になりえるのか
1名 (2.13%) (2.63%)
・衛生管理　1名 (2.13%) (2.63%)
・非常時対応　1名 (2.13%) (2.63%)
・無回答　11名 (23.4%)

Q14．Q13の不安はどの様に解消されれば不安がなくなると思いますか
(左：回答者の%、右：全体の%)

・世話人や指導者がいること
13名(27.66%) (35.14%)
・同居人が障害者に理解者がある
5名(10.64%) (13.Q%)
・同居人の情報　3名(6.38%) (8.11%)
・食事が毎日でなくても提供される
3名(6.38%) (8.11%)
・有事の際の対象法が明確化されている
3名(6.38%) (8.11%)
・各部屋にトイレやキッチンがある
2名(4.26%) (5.14%)
・サポート体制の充実　1名(2.13%) (2.7%)
・役所からの支援　1名(2.13%) (2.7%)
・わからない　1名(2.13%) (2.7%)
・無回答　12名(25.53%)

Q15．11月7日に今回の新しい家の入居希望者説明会が開催されます。参加したいと思いますか

1．思う　13名(27.66%)
2．思わない　14名(53.85%)
3．時間が合えば参加してみたい
13名(27.66%)
4．無回答　7名(14.89%)

Q16．家づくりワークショップの参加や説明会とは別に直接話を聞いてみたいと思いましたか

1．思う　16名(34.04%)
2．思わない　22名(46.81%)
3．今は不明　1名(2.13%)
4．無回答　8名(17.02%)

Q17．障害者の生活方法や今回の家づくりについてのご意見等、自由にご記載下さい(一部を紹介)

・理想的な環境だと思う。また立地が町外れではなく都心の一等地にあるという事に驚いている(20代,男性,知的障害4級,身体障害1級)
・理想だと思うが親の立場として想像がつかない。考え方としてはこれからの時代に適していると思う(40代,女性,ダウン症候群)
・一人ひとりの力が発揮できるよう支える人を望む。どのようにしたら、自立を目指せるか考えてくれる環境を望む(20代,男性,自閉症)
・とてもすばらしい試みだと思いますが、色々な面で自主的な人ではないと無理だと思いました(30代,女性,知的障害3級)
・障害の有無では大きなハンデがあるので、違和感を感じます。むしろ生活寮など障害者数名を住み込みの寮母さんが面倒見てくれるシステムを歓迎する（30代,女性,知的障害4級)
・障害者の個人差があり、生活方法は一言では語れないが、障害のない人と共に暮らす方法は感動です。終の棲家になれば最高ですね（20代,女性,ダウン症候群)
・障害者の隔離された生活や、自宅→作業所→自宅のみの生活はさせたくない。生活を楽しんで色々経験をしたり、たくさんの人と接する機会を多くしたい（20代、男性、ダウン症候群)
・グループホームやケアホームのほうが私の子供にはあっていると思います。しかし、軽度の障害の人たちにとっては良い「試み」と思います。ぜひ成功させてください。(20代,男性,知的障害)
・親は常に理想と現実で悩ませれています。将来の事を思い育てているが中々うまくいかない。健常者なら自分で考えなさいと自立を促させるが、障害者はどこまでできるのかがわからず、そこが辛い（30代,女性,ダウン症候群)

ぱれっとの新しい家づくり計画

○これまでの活動内容

日付	活動	内容	
2008年 12月11日	■キックオフミーティング	たまり場ボランティア向けに「新しい家づくり」の構想発表、ワークショップメンバーの募集	
2009年 1月10日～ 5月2日	ワークショップ・実行委員会 （第1回～第8回）	家の目的確認、プロジェクト名の検討	
		プロジェクト名決定、運営組織体制の確認、今後話し合う内容の検討	
		家のコンセプト、ミッションの話し合い	「障害者の一人暮らし」への不安や課題について考える
5月9日～ 8月22日	■松陰コモンズ見学	松陰コモンズ(NPO法人ｺﾚｸﾃｨﾌﾞﾊｳｼﾞﾝｸﾞ社運営)の見学会に参加	
	ワークショップ・実行委員会 （第9回～第16回）	各係設定(※)：助成金情報収集、募集チラシ作成、家の周辺ガイド作成、地図作成、アンケート作成、共用備品収集等	建物検討（間取り、共用スペース位置、家賃、バリアフリーについてなど）
9月9日	■日本経済新聞（夕刊）掲載		
9月12日～ 10月24日	ワークショップ・実行委員会 （第17回～第20回）	知的障害者の一人暮らしに関するアンケート実施、助成金応募に向けた取り組み	
10月15日	■入居者募集開始		
10月26日	■第1回プレスリリース配信	入居者説明会・敷地見学会	
10月31日	■コレクティブハウス聖蹟見学		
11月7日	■第一回入居希望者説明会・敷地見学会　開催		
11月16日	■全国賃貸住宅新聞　掲載		
11月21日	ワークショップ（第21回）・実行委員会（第20回）	各種検討（入居までの流れ、入居希望者ミーティングの運営方法、家賃等）	
11月28日	「ﾊﾟﾅｿﾆｯｸNPOｻﾎﾟｰﾄｲﾝﾀｰﾝｼﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ」最終報告会にてプレゼン（プレゼン内容：「ぱれっとの新しい家」における戦略的な情報発信、広報への取り組み）		
12月5日	実行委員会(第21回～第22回)	『ネットワーク』（東京ボランティア市民活動センター発行）取材	
2010年 1月9日	ワークショップ（第22回）・実行委員会（第23回）	入居希望者ミーティングの内容・共有備品の集め方検討	
1月10日	■『ネットワーク　2010年1･2月号』（東京ボランティア市民活動センター発行）　掲載		
1月23日	■工事見学＆内装検討会		
1月30日	実行委員会（第24回）	入居後の運営体制・保険・備品・助成金の検討	
	第1回入居希望者ミーティング	入居希望理由、どんな暮らしをしたいか等想いの共有	
2月13日	ワークショップ（第23回）・実行委員会（第25回）	建物の名称「ぱれっとの家 いこっと」に決定	
2月27日	実行委員会（第26回）	契約内容・表札・完成記念式典の内容検討	
	第2回入居希望者ミーティング	掃除や共有スペースの使用のルール作り	
3月13日	ワークショップ（第24回）・実行委員会（第27回）	表札のデザイン決定、式典の流れ確認、助成金、など	
3月23日	■第2回プレスリリース配信	完成記念式典・お披露目会	
3月27日	実行委員会（第28回）	完成記念式典準備、契約内容・オープン後の運営体制の検討	
	第3回入居希望者ミーティング	入居後のルール決め、役割分担検討、部屋決定	

※係の種類：助成金係、広報係、募集係、地域係、生活係、備品係

○今後のスケジュール予定

4月10日	入居開始
4月24日	第1回入居者ミーティング

～基本設計を終えて～

基本設計が終わり、建物については折り返し地点です。ワークショップの参加者にそれぞれの思いや感想を聞いてみました。

建物プランで検討した項目の一つにバリアフリー対応があります。例えばエレベーター設置の是非については、実際に設置した場合としない場合の設計図を見比べ、検討した上で家賃や居住スペースの問題から今回は見送りという結論が出されました。結論ありきでない話し合いを重ね、各部の設置意図を明らかにできたことで、入居を希望される方にも十分な情報をお渡しできると思います。　たまり場ボランティア 安達 徹

専門家の方々のお力添えのおかげで、基本設計が終わり家の間取りが決まりました。個人的には、人と人が繋がれる家、個々人が楽しんで暮らせる家を創りたいという思いを持ってこれまでの話し合いに臨んでいまして、どうやら家の作りとしてはそれができる家になりそうです。今後の話し合いでは、家の暮らしをどのように運用していくかということが焦点になってきますが、「繋がる」「楽しむ」というキーワードを忘れずに話し合いを盛り上げていきたいと思います。　たまり場ボランティア　松村 昂明

基本設計を終えて、建物のことで一番印象に残っているのは、居室についてです。最も優先すべきことは、多くの時間を過ごすプライベートの空間である居室の広さを確保することでした。ワークショップの中で、何度も討論され試行錯誤しながら、１部屋を減らし８室になりましたが、６畳以上の広さを確保することができました。限られた建物の広さや規定がある中で建物の設計は大変でしたが、納得いく居室を作ることができたと思います。

えびす・ばれっとホーム職員　伊藤 遥

私は、建物の事は難しくて正直わかりませんが、各部屋に関しては、狭いよりは広い方が使いやすくて良いと思います。それと、私が建物の中でもっとも安心出来る所、それは共用リビングです。確かに自分の部屋に居ても必ずしも安心とは言えません。共用リビングは家の中心でもあり、会話が行き交う所です。それが無かったらさみしいので、共用リビングを大切にしたいと思います。

Restaurant & Bar Palette主任 佐藤雅敏

風呂に関してはかなりの話し合いがなされました。「各階に浴槽が必要か？」という話題になった時、思いもよらぬ声を聞くことになりました。「今の若者は一年中シャワーですませてしまう」そうなのです。湯船につかり体を温めるのが当たり前でしたので、年齢差による考え方の違いにビックリしました。浴槽は一階のみになり、その分だけ費用が減り部屋の広さにも余裕ができました。限られた敷地面積から建物を作り上げてゆくためには優先順位も必要であると同時にその難しさもつくづく感じているところです。

元おかし屋通所員の親　林 喜美子

SSKS 1995年8月10日第3種郵便物認可（毎週1回水曜日発行）2009年10月5日発行第通巻4685号

ぱれっとの「新しい家づくり計画」が日本経済新聞に掲載されました！

去る９月９日（水）、日本経済新聞社より「ぱれっとの新しい家づくり」について取材を受けた記事が、社会面の夕刊に掲載されました。全国版でかなり大きく取り上げられたこともあり、記事を読んだ会員の方や、関係団体の方よりメッセージが寄せられています。また、一般の方からも「記事を読み、家づくりの活動に感服をした。一人の住人として自分の住む地域でも、何か分かち合えるものがあれば良いと思った」と、大変力強い応援メッセージをいただきました。

新しい家づくり計画に賛同して集まったメンバーは、約２０人。たまり場ぱれっとの学生及び社会人ボランティアを中心に、障害のある本人、親、スタッフ、建築の専門家で構成され、休日を利用して月２回話し合いを重ねています。また、企業(㈱東京木工所)とＮＰＯが協働でつくるところにも、今回の「新しい家」の新たな可能性が秘められています。土地・建物の提供をはじめ、設計等での専門知識や技術、経験を活かした様々なアドバイスなどが、家づくりメンバーたちの想いと調和しながら作り上げられています。

ぱれっと事務局長　菅原睦子

※日本経済新聞夕刊（社会面 P14）
2009年９月９日掲載記事より
※承諾を得て掲載をしているものです。無断で記事の転載をすることは、禁止されています

（日本経済新聞夕刊（社会面P14）
2009年 9月 9日　掲載記事）